

# クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

WINコンコード

留学生とともに25年 ～変化する課題、変わらぬ思い～

## ■ 団体設立の経緯

今から30年前、和歌山で生活する外国人向けの英字情報誌を発行する中で、地域の留学生の厳しい状況を知り、何とかしなければという気持ちが自然と生まれました。1991年7月に当団体の事務局長を含め、高校時代の同級生8人が発起人となり、「WINコンコード」という任意のボランティア団体を設立しました（2009年よりNPO法人認証）。私どもの団体は、設立当初より、和歌山県下の留学生が安心して快適な留学生活を送れるよう、また、地域社会との交流を通じて和歌山への愛着や魅力を感じてもらうことを理念に、25年間世界各国のさまざまな留学生とともに歩んでまいりました。その活動の一部をここでご紹介したいと思います。

## ■ 活動の内容

### ・生活支援事業

留学生活の厳しさを目の当たりにし、少しでも支援できればとの思いから、冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、自転車などの生活用品の貸し出しをはじめ、住宅、病院の紹介や交通事故の際の支援などを行ってきました。

### ・交流事業

アパートと大学とアルバイト先、この3か所が大半の留学生にとって多くの時間を過ごす場所です。そのため、地域社会との交流を通して留学生に和歌山をもっと知ってもらい、その魅力を見つ



和歌山城での新入生を歓迎する花見

けてもらえることを願って、各種の交流事業を実施しています。

4月は新入生を歓迎する花見、5月は会員と新入生を中心とする留学生との交流会、8月は和歌山市主催の夏祭り「紀州ぶんだら踊り」への参加、10月は後期入学生の歓迎会を兼ねた「留学生の故郷を語る集い」、12月はみかん狩りなど、年に5回程度の行事を開催しています。

### ・研修事業

日本の社会や文化を知ってもらうことを目的に、会社見学、伝統文化（文楽・能・日本舞踊・生け花など）の鑑賞、美術館・博物館の見学などを行っています。会社見学については、これまでに、トヨタ自動車、パナソニック、セイコーエプソン、東レ、アサヒ飲料など、日本を代表する企業を訪れました。

### ・その他の事業

会員の有志により、個別の留学生に対しホスト

ファミリーを紹介しています。留学生の悩みや相談に対してカウンセラーの役割を果たしてもらい、きめ細かく支援を行っています。

また、留学生の自主的な活動の協力もしています。大学祭の留学生模擬店で一緒に料理を作ったり、卒業アルバム作成を手伝ったりしています。

会報誌は年1回発行し、当団体の取り組みを紹介し、留学生の実情を地域の人々に知ってもらいたいと考えています。留学生が、母国の紹介やそれぞれの志、日本で体験や日本と和歌山に対する思いなどを書いています。

### ・地域社会との連携

留学生支援の活動は、地域社会の理解と協力に支えられています。生活支援の面では、生活用品の確保に当たり、数多くの個人や団体からの協力と援助をいただいています。賃貸住宅への入居については、低賃料物件の確保など、特別の配慮を県建協からいただいています。留学生に対する県内の美術館・博物館の入館料の無料化は、県教育委員会のご尽力によるものです。



和歌山花王のエコラボミュージアムと工場見学

## ■ 新たな取り組み ■ ～法人認証および就職活動支援～

当団体の会員は現在48人です。留学生が100人を超えるころから、きめ細かい支援が難しくなってきました。私たちは、活動を継続していくために、NPO法人への移行が望ましいと考えました。それは、組織を安定させ、社会的信用を向

上させたいと考えたからです。2009年8月に和歌山県よりNPO法人に認証された当団体は、地域社会挙げての留学生支援ネットワークの中核としてさらなる役割を果たしてまいりたいと考えています。本年度は、ホストファミリー事業への助成を地元企業から頂戴しています。また、中島記念国際交流財団より助成をいただき、「和歌山の世界遺産を学ぶ」という、地域住民との交流推進事業を和歌山大学と共同で実施しました。

留学生の日本企業への就職は非常に厳しく、就職率は希望者の3割程度と言われています。2009年から就職活動支援を始めました。私たちの就活支援とは、留学生に自らの日本語力を意識させ、日本企業への就職に向けて本気にさせることと考えています。彼らの日本語力では、自らの能力や持ち味を十分に伝えることが難しいことから過小評価され、なかなか採用に結びつきません。日本語での会話と作文、そして日本を知ることを中心に、個人勉強会とグループディスカッションを行ってきました。この5年間で20人を超える留学生が参加しており、ほぼ全員が既に就職しています。この取り組みを通して、留学生との距離がさらに縮まり、相互理解が深まってきたと感じます。また、改めて交流事業や研修事業の意義と必要性について再認識させられたように思います。

## ■ 今後の課題

NPO法人として、多様化する留学生に対し、彼らが心から望んでいることに、いかに対応しているかが重要です。そのために、活動財源の確保、より一層の地域社会との連携・協働、そして支援内容の見直しが課題として挙げられます。また、会員の高齢化が進んでおり、後継者の育成も課題です。

しかしながら、私どもの団体は、留学生に少しでも「日本に来てよかった。和歌山に来てよかった」と思ってもらい、この和歌山での出会いが世界に向けてヒューマンネットワークとして広がっていくことを願って今日も地道に活動しています。